

お年玉の使い方

お正月の楽しみと言えば「お年玉」だね。確かに、中学生にとっては1年で最も大きな収入だ。でも、ちょっと待って。ほんの数カ月、欲しい物を前にして「ああ、お年玉を残しておけば……」と思ったことはないかな？ お金は「使う」と「ためる」のバランスが、大人でも間違えようほど難しいんだ。お金についてみんなが学ぶのを手助けするNPO法人「楽学生生活協会」の金子フランクさん＝写真右＝、岩下桂子さん＝同左＝にアドバイスを聞いたよ。一緒に考えてみよう！ 【高田典子、写真も】



いでしょう」と金子さんはアドバイスをする。

★買う・買わないの判断は…

消費に回すと決めたら、すぐお店に走る？ いやいや、3日間か最低でも1晩は待とう。「よく考えるこ

と」が大切なんだ。

買った途端に後悔したこと、あるよね？ 「実は私も」と岩下さん。子どものころに親せきからの臨時収入で衝動買いしたオルゴール人形だ。「すぐに飽きてしまった。教訓として今も飾っています」と苦笑い。

具体的には、どうしたらいいんだろう。岩下さんは長男がMDプレーヤーを買う時、別表を作って一緒に考えた。CDラジカセ▽MDポータブルステレオ▽iPodなどのMP3プレーヤー——など似た機能を持つ五つの選択肢を、まず挙げた。次にどんな使い方をするのか想像して▽CDが聴けるか▽価格は▽音を出して聴けるか▽ヘッドホンかで聴けるか——といった点を比べた。

表にまとめると長所・短所が一目で分かる。自分にはどの商品がベストか、その価格と手持ちのお金を比べて考えよう。お年玉だけで買えるかな？ もう少し待って小遣いをためる手もあるよね。こんなふうによく考え納得して買えば、後悔することはないはずだ。

〈使う〉〈ためる〉バランス重要

考える前に心構えを一つ。岩下さんは「もらえて当たり前」という考えを、やんわり否定する。お年玉は、年の初めに「年神さま」に供えたお餅を家族で分けたのが始まり。現代では、ご両親やおじいちゃん、おばあちゃん、おじさんらが、みんなにくれるよね。それは、親せき付き合いの一つとして「この1年、頑張りましょう」という意味が込められているんだ。心して受け取ろう。

★「消費」と「投資」がある

さて本題。岩下さんは、中学2年生の長女と小学5年生の長男、4年生の二女のお母さん。岩下家は、お年玉のような子どもたちの臨時収入について「いったん全額貯金して将来実現したいことのために“投資、する」というルールを決めている。長女は早くも「来年の高校受験料に」と考えているようだ。

「投資」には、利益を見込んで資金を投じること。岩下家の場合、自分の夢や目標のために将来使う(ために一時貯金する)という意味を込めている。これに対して、今モノを買ったりしてお金を使うこと

	CDラジカセ	CD/MD専用のラジカセ	CDポータブルステレオ	MDポータブルステレオ	MP3プレーヤー
CDが聴けるか	○	○	○	×	×
MDが聴けるか	×	○	×	○	×
価格は	約5000円～1万円	2万～3万円	3000～5000円	1万～5000円	1万5000円～3万円
音を出して聴けるか	○	○	×	△	×

イラスト・早乙女民

を「消費」という。投資する夢や目標は、紙に書いたり口に出したりすることを岩下さんは勧める。お正月なら書き初めがぴったりだ。

もちろん消費が必ずしも悪いわけではない。「『投資』に変わる『消費』もある」と金子さん。ずっと欲しかった物を手に入れたり、普段できない

ことを体験したりすることで、次へのステップを踏み出す元気が出ることもあるからだ。

岩下家のようなルールがないなら、お年玉の消費と投資はみんなが決めなくてはいけない。〈半分は貯金〉〈●●円までは使う〉など「割合や金額を家族と相談するとい

※1 三菱東京UFJ銀行旧UFJ銀行が首都圏・近畿圏の主婦3000人に尋ねた05年のアンケート結果。4618円は大人1人が中学生1人に渡す金額の平均値。※2 ベネッセコーポレーションが首都圏の公立中学生1528人に尋ねた03年の調査結果。88%が3000円未満だった